明治三十一年五月十八日印刷
明治三十一年五月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百貳號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百二號
目次

講演

●食物に就て　陸軍一等藥劑官　恩田重信君

衛生叢談

●病婦へのさとし草
●初生兒の保育
●二三の素人療法
●初生兒の疾患
●針治に就て
●新潟支會講演
哺乳兒の消化不良に就て　水野欽君
●質疑應答　數件
●大日本婦人衛生會記事
●新潟支會記事
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第百一號
目次

講演

●衛生上の感に就て　醫學士　山根正次君
●軍隊と衛生との關係に就て　陸軍歩兵大尉　堀内文次郎君

衛生叢談

●耳内の異物に就て
●衂血
●齒病
●咽喉炎
●咯血
●吐血
●流産と早産に就て
●幼兒に對する心得
●惡阻に就て
●毒物のこと
●牛肉良否鑑別法
●大日本婦人衛生會記事
●廣告數件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百貳號
（明治三十一年五月二十日發行）

講演

◉食物に就て

陸軍一等藥劑官　恩田重信君演説

私はさる一月御例會の節階行社を御紹介致しました處が非常に多人數御集會になりまして、殆ど場所の狹隘を感じて困る位ゐで御座いましたから今日も定めて御盛況の事と想ひましたるに、前會とは反對に御出席者が甚だ御少ないので田原君佐藤君にも御氣の毒のやうでございます。

御話に入る前に御斷り申して置きたいのは、私は軍人であつて始終兵隊に交つて居るので、自然音聲が高うございますから貴婦人方は大へんに騷々敷思召すかも知れぬがどうか其御積りで御聽き取りを願ひます、今日は食物經濟の事を御話致します、先刻佐藤君が怪俄の事に就て述られ、田原君は新式消毒燈の事を御話されて、黴菌の事、病毒傳染の事は既に充分言ひ盡されましたから是から私が食物の御話をしたら丁度宜しからうと思ひます。とかく世の人は食物の事を言ふのは賤劣と云ふやうに言ひます、けれども元食物は此貴重なる生命を支へる處の必要一日も欠くべからざるものであッて、一番先に注意すべきとゝ思ひます。而して段々世の中の有樣を看まするに、貧窮をして居るものは却ッて比較的食物の正當の價直を保ッて居るけれども上流の方は概して美食と云ッて佳肴珍味は召上ッて居られましても、食物の眞價と

食物に就て

云ふ處に至ッては、其平均を失ッて居るやうに思ふ、ソコで今日は食物の養價と云ふことを御話致さうと思ひ附いたので御座います。又皆様方の中には一口に此物は養ひになるとか、ならぬとか、或は是れは滋養物であるとか、無いとか云ふ様な事を言はれる方が有りますが、一躰私は滋養物と云ふ語は甚だ解し難い語であると思ひます、何故と云ふに、凡如何なる食物でも一通りの養ひはあるもので御座います、例之ば椎茸の如き乾き切ッた物でも一通は養ひになります、又鷄卵牛肉の如きものも、勿論結構なる養ひになります。けれども如何に鷄卵牛肉が好いからといッても、始終其物一品のみを召上ッて居ってはやはりソレは養ひにならないので有ります、簡言すれば凡物には程度と云ふものが有りまして、それより過不及が有ッては不可、今その例を擧げて見れば、水と云ふものは生活上最肝要のもので有るが、此水が程を超して多く有過ぎては甚だ困る、火も其通り必要には相違ないが多過ぎて火事は東京の名物と云ふやうであッては大へんに困る斯くの如く總て物事は釣合が宜くなければ不可ませぬ。ソレと同じに食物も脂肪蛋白含水炭素等の養素の平均を得なければ、如何に良いものを澤山食べても身躰の養ひにはありませぬ。其釣合を好くする處の食物の養價に就て是れより些か述べようと思ふ、デ私の御話するに其據る處は、やはり陸軍の書で有りますから左様御承知を願ひます。

先づ食物に二種有ります、一はからだの養ひになるものにして則ち食品で有ります、一はその養ひを助くるもの、所謂嗜品で有ります。嗜品とは唐

辛子、或は芥子或は西洋料理の上にふりかける胡椒と云ふやうなもので、是れは直接にからだの養ひになるに非らずして、からだの養ひになる食品の消化を助くるので有ります。此二ッの物が丁度好い工合にからだの中に這入らなければ眞個の養ひにはならないさて食物は此二ッが必要とした處で、又一種々々に就て考へて見れば是れも矢張極く調子の好い割合になッて居らなければ眞個の養ひにならぬ、全体食物と云ふものはどう云ふものかと云ふに、身躰の中に這入ッて燃ゐて溫と云ふものを造るので有ります。恰も煖爐の中に石炭が這入ッて燃えると同じに、食物は身体の中に這入ッて燃える則ち、食物が燃えるので、我々の體に常に溫と云ふものが有るのです。而して煖爐に燃す處の石炭が惡るい質であると、灰が澤山溜り

良い石炭……かの三池石炭の如き良質のものであると、燃す量は同じでも灰の溜り方が少ない。ソレと同じく人間のからだに取る處の食物も滋養分に富んで居るものであれば、少しく尾陋の事ながら大便となッて排泄せらるゝものが少ない、其證據は西洋人と日本人との大便の貫目を量ッて見ると解る解り易く言へば、大便は食物の食滓であるのですから、惡るい食物を食べると澤山に大便が出る又縱ひ良い食物でも腸胃に於て能く消化されて悉く肉になるものとならぬものとが有ります肉になるものが澤山でなければ其食物が好いとは言へない。又如何程良い食物で有りましても、肺病などに罹りますと內部の器械が損じて居りますから、乳でも鷄卵でも、其の他どのやうの御金をかけて良い食物を撰んで食べました處が、之を血

管の中に吸入して與れませぬ、言ひ換ゆれば肉となりませぬ……ソレで一言に申しまする、大便は役に立たぬ食物の滓が只出るものと御考へになれば間違ひはない。ソレから小水の方はからだの養ひを爲したる滓が出るのであると御考へを願ひたい。ソコで私共が凡ての食物の良いとか惡るいとか云ふことを試驗するにはどうすれば宜いかと云ふに、先づ食量を定め、妄に外の物を食べない樣に致し、又一方にはソレと同じ量の食物を受ッて置いて、而して躰外に排泄された處の大便の量をはかッて、最初食べた時に、十錢あッたものが大便に五錢だけの量輙ち半分だけ排泄さるれば、あとの五錢はからだの中に止ッて血肉となッたのであると云ふことが解ります。軍隊に於て兵の食物を定めるには皆斯う云ふ風な試驗をします

兵隊の食量は一日米一合、錢六錢と定ッて居ります、勿論其土地に由ッて必しも米が六合、錢が六錢といふのではなく、其中で多少の融通は致します、縱へば高崎の如きは、米價が高うござりますら、米を五合として、錢を八錢にしてありますが、とにかく兵隊の糧食は皆ソレだけで遣ッて往くのです。ソレ故に此六錢と云ふ金を以て一番からだの養ひになる分素を多く含んで居るものを撰ばなければならない。試に御覽なさい、冬季生瓜などを割烹の中に用ひんとすれば、一本十五錢もする、さうして其養分は如何と云ふに更に取る處はありませぬ、兵隊に於ては額に制限が有りますから、斯やうな走物の價の高いものを用ひることは出來ない、兵隊では一飯が二錢宛でからだの養生になるものを、三度々々食はせなければな

らない。ソレ故に先づ第一に何う云ふ品が澤山營養分を含んで居るかと云ふことを檢査しなければならない、其檢査とはどう云ふことをするか……其方法を鳥渡御話致します

極く身躰の健全のとき、少しもからだに異狀の無いときに一週間位飲食物を定める、例之は一食に御飯が三杯汁が一碗香の物いくらと云ふやうに定め、毎夕絹糸或は小豆十粒ばかりを嚥み込んで飲食物を食べ置けば其後排泄る大便には印が附いて出て來る、そこで其便を一々便器の中に取つて權衡にかけ、分析をして見ます。又一方には同量の食物を乾燥して分析をする、而して其物に十錢だけの養分があツたとして偖排泄された便の中に三錢位ゐの養分が出て居るならば輙ち七錢だけがからだの養ひになつたのであると云ふことが解る、其證據には小水を分析すると、丁度七錢だけの養分に相當する滓が出て居る。十錢の品物が十錢悉くからだに吸収されて了へば、非常に好い食物だが其中の若干かは必ず吸収されずに排出て了うので有ります。ソレ故に食物は成たけ身躰の中に吸収さるゝ量の多いものを撰んで食べるのが宜い。まづ斯う云ふ方法に因つて養分を極めるので有ります。前席の田原先生なども、十年程前から非常に詳しく此事を調べられたです、私も多くの食物を爾う云ふ樣に分析致しました、先頃台灣に參りました時にも、台灣に在る食物を皆分析して見ました、ソレで何う云ふ品が養ひになるか……成たけ養分の多い品を買う樣にしなければならない。さて其食物の中には大躰どう云ふものを多く含んで居るかと云ふに、假に茲に米があるとすると、此

米の中にはいろ〳〵の成分を含んで居るが、其主なるものは蛋白、脂肪、澱粉の三種で有ります。此三ッの物が身躰の養ひにあるので有ります、澱粉は何を多く含んで居るかと云ふに、薩摩芋、馬鈴薯等の野菜に多く含んで居る穀物類には澱粉と蛋白とが丁度好い工合に這入ッて居る、鳥、獸、魚等の肉類には澱粉は少しも有りませんで、蛋白、脂肪の二種で有ります、野菜には一躰に蛋白、脂肪、澱粉の三種を含んで居る。ソコで之を分けて申しますれば蛋白と云ふものは考へを致すもの、則ち精神を勞する者に最必要で有りますから是れは學者若くは病人等が多く用ひなければならないのです。ソレから脂肪と澱粉の二ッは、身躰の中に這入ッて燃えて温くなるもの、輙ち一定の躰温を保たしむるに要用な物で有ります。ソレ故に自然の作用に由ッテ北方寒冷の地に住める人は脂肪質の物を大へんに好みます、現に清國の北、露西亞の北方の地に住める人種は肪脂を飲みます。内地でも越後の方の人は脂肪質のものを好みます。ソレに反して、南方の人は脂肪質のものを好かない。何故と云ふに只さへ季候の熱い上に、脂肪質のものを食べると、身体が燃え過ぎて熱くて堪へられむからで有ります……斯う云ふ譯ふ有で有りますから地の寒温を問はず、一般に車力の如きからだを勞するとの多き勞働者は燃ゆるものを澤山に食べなければならむ。學者又は家の内に閑かにして居らるゝ方は、蛋白を餘計に食べなければならぬので有ります。なんでも食物は分拆をして見まして、此三種(澱粉、脂肪、蛋白)が多い物が最好い食料であるので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ソコで先づ極く單簡に御話をして見れば、米類の養分の割合は何うかと云ふに白米百分の中には

蛋白　七　脂肪　一

澱粉　七〇

合せて七八、殘り二二は灰分（燃ゐ殘りの灰と同じやうなもの）と水分とで有ります。そこで肉類は如何かと云ふに即ち百分の中には

蛋白　一七　脂肪　六

其他は水分と灰分とで有ります、斯くの如く分析しました上で、牛肉と米とを比較すると、牛肉は養分が二三しかない然るに同じ分量で米は七八の養分を持ッて居ります、そこで米百匁の直段が十錢、牛肉百匁の直段も同じく十錢とすれば、御米の方が廉いと云ふ理由になるのです。そう云ふ譯で有りますから、總ての食物に就て此三ッの物（蛋白、脂肪、澱粉）のその位ゐ有ると云ふことは是非知らなければならない、田原君は凡そ百程食物を分析せられた、私も五十種程分析しましたから、何れ雜誌に御掲載になる樣に表に作つて差上げますから、始終此三つを御覽になつて、此品は蛋白質を澤山含んで居るとか、或は是れは少ないかと云ふことを御知りになつて、日常の食物を御撰びになるやうに願ひたひ、ソレを丁度適宜に取つて往かなければ身躰は安全に保つことが出來ないので有ります。

ソコで今度は御話が進んで、食物を取りますると、ソレが身躰の中に於て燃ゐます、丁度石炭が煖爐の中で燃えると同じで有ります、而して石炭も一斤の石炭を燃した時と、二斤燃した時とは温みが違ふハ ソレと同じで食物も澤山食べた時と少

し食べた時とは、躰温計で計れば同じであるが、身躰の感覺が違ひます。例之は大へんに寒く感じても食事をして腹が滿れば寒さが薄らいで來ます、ソレ故に食物は量は少なくとも養分の澤山あるものを撰ばなければなりませぬ。そこで物の價を極めまするには、米一合を食すれば何の位ゐの温量を生ずるか、牛肉は如何魚肉は如何と云ふことを調べましてソレを表に作りました。ソレから又通常人間のからだにはどれだけの熱が無ければならむかと云ふ事をも調べる此事は大へんにむづかしいのですが、西洋でも兵士一人の身体には、如何程の熱を要するかと云とは頻りに研究して居るので御座います。御承知の通り戰闘時には馬に食を與へるにも平時よりは分量を多くしなければならむ、又軍艦を駛らせるのに、蒸氣力を盛にするにも、矢張り澤山の石炭を要します。ソレと同じ樣に人もソレだけ餘計に食物を取らなければ充分にからだを動かすことは出來ませぬ、力と食との關係は實に不思議なやうなのです、先年私が墓參をしました時に、墓石の屈ッて居るのを直はせと云ッて、傍に居ッたものに命じました處が腹が減ッて居ッて力が出ないと云ふので、食事をさせて再び石を正させた處が今度は眞直に立てることが出來ました。又戰爭などに臨んでも腹が充分にとゝのッて居らむと思ふさま働くことは出來む。過ぐる日淸戰役の際に、私共は碧流河と云ふ河邊で一夜野宿を致しました、その時我々は從卒に飯を持せて居りましたが、人夫共は各自に食物を持ッて居ッた處が九時比に晝の辨當を食ッて了ッた、ソレで午後には空腹になッてなんともかと

も仕方がない、大へんに不都合を來たしましたので、ソレより後は辨當の握飯を取上げて十二時にならねば何うしても食べさせない事にしました、人間に食物が無ければ働けないのは、丁度石炭が無ければ蒸氣力を進行させるとの出來ないと同じで御座います。人間は毎日

蛋白　一五五　脂肪　一三七
含水炭素　二三二三

「カロリー」と云ふものを取らねばならん。是れは陸軍の兵士等の食量として常に醫師の注意して居る處で有ります、勿論戰時には別にモッと食べなければならないのですが、平時に於ては之を標準として往かなければならない、今米一合を食すればどの位ゐの温量を生ずるかと云ふに

蛋白　三五、二一　脂肪　一、三
含水炭素　五四四、五

で有りまして二合で七五、三合で一〇五、四合で一四五故、米に由ッて一五五の蛋白を得やうとするにはどうしても、一日四合以上の米を取らなければならぬので御座います。是れは尤兵士の食量で有りまして、兵士はからだの貫目が平均十五貫も有る、婦人方は餘程大きい御方でも十三貫目位ゐで有ります。兵の如き十五貫も有る身躰を有てるものでも、蛋白一五五と云ふので有りますから貴婦人方はそれより少なくて宜しいので有ります……先づ爾う云ふ割合故御米ならば四合以上食べなければからだの養ひにありませぬ。處で貴婦人方は三合召食るのがやう〳〵です。故に其れ以上の量は鶏卵、肉、乳などから養分を取らなければならぬのです。米四合の養分は

蛋白　一四〇、八　脂肪　五、三
含水炭素　二一七七、九
又牛肉十匁の養量は
蛋白　三一、〇　脂肪　一九、八一
含水炭素　――

で、牛肉十匁の養量は米一合の養分より少ない、牛肉を二十匁召上ると御米を二合召上がッた割合になる、故に御米を四合の處を三合にするならば、牛肉を十五匁召上がると丁度御米を四合食べたと同じになります。

ソレから鷄卵と乳……よく病人などが鷄卵一個は乳若干に當るかと云ふ事を問へますが、鷄卵にも大小いろ〳〵有りまして、一槪には言はれませぬが鷄卵の可なり大きいのは十匁位ゐ有る、チャボの卵は八匁、クキンの卵は十二匁と云ふ様にいろ〳〵有りますが、先づ十匁と御覺へなされば宜い其鷄卵一個十匁と見做してゝは

蛋白　一八、六　脂肪　五八、六

でありますから十匁の卵二個は牛肉十匁の溫量と同じて有ります、牛乳は一合の溫量が

蛋白　二六、九七　脂肪　七七、九三
含水炭素　四一、七〇

で有る、故に牛乳二合は十匁の卵三個に當ります尤も單に蛋白のみを比較せず養分總体の上から云ふと、鷄卵一個の養分は七七、牛乳一合の養分は一四六、肉十匁の養分は五〇と云ふ割合で有りますから乳一合だけの養分を肉より取らむとするには三十匁を食はなければならむ、又鷄卵二個は乳一合に當る、而して米一合の養分は五八一ですから是れだけの養分を牛肉から得んとするには

百匁の牛肉を要します、斯うして養分を割出して見ると米と云ふものは非常に好いもので有りまして、濫りに多くの費をなして、乳、鷄卵、肉等を食べて養生をしないでも米さへ食べて居れば宜いので有る、又米の炊き方が大に養價に關係をします、米を軟かく消化し易い様に炊ぎますと、血管の中に吸收され易い、軟かい飯が嫌ひで食べ惡いあらば、胡椒、芥子、カレー等の香氣あるものを用ひて、ソレを附けて召上がるが宜い。一体日本の人はあまり香氣あるものを用ひませぬ、やうやく柚子、海苔位ゐの處でございますが、モウ少し香氣あるものを食料に用ひられたら宜からうと思ひます。辛きものは食物を消化する處の胃液の分泌を促します、又唾液の分泌をも盛にします、此唾液の効能は澱粉を糖質に化す、則ち米を消化する作用を有ッて居る、故に唾液も亦大切あるもので有ります。で以上は只一二の例を摘出したに過ぎませぬが、兎に角食物の養分を先づ知り其溫量を計算し又其消化量を計算して人躰に必要ある分量を適宜に配合して攝取ねば養生にならんのであります。

人間のからだは前に述ぶるが如く毎日二三二三(カロリー)の養分を取らなければならむ。然るに米一合が五八〇(カロリー)であるから二三二三の養分を米から得やうとするには米四合を要します斯う云ふ様に割り出したのが眞個の、食物の養價と云ふものであります、尚養價の事を詳しく申せば其品物の價からして大躰定めなければならむ、例之ば養分を同じ分量でも價が違ふならば其價の安い方が養價に富むといふことになる又魚肉で中

食物に就て

せば鯛も鰯も養ひの點に於ては變りがない、然るにその價は鯛の方は大へんに高く、鰯は大へんに廉い安いから鰯は鯛よりも養價に富むと云ふ理屈である處があなた方は高い方の鯛を御買ひになる養價と云ふことには御氣が付かれない、鰯をして如何にも下品のもの丶如くにあさるは無理じやないかと思ひます勿論あなた方は高いも廉いも御懸念にはありますまいが、つまり兵隊の六合六錢の話からさう云ふことにあツつて來るのです、併しながら一應此養價と云ふことを御存知ある方が宜しいと思ひます、分析表で見ると干鮭が大へんに宜い、からだに這入ッてからも却々効能があります、鰯と共に御贔負を願いたい……實に食物と云ふものは不思議なもので、決して口に味を感ずるばかりでは役に立たない、ソコの處を能く御了解にならなければならぬ。西洋の女子は所謂女學と云ふ方の側からさう云ふ事を悉く調べて表を作ッて置いて其個の養分の方から割合を立て丶往くことを知ッて居る、例之ば松茸は一斤三十五錢で其養分が只八〇然るに牛肉三十錢で養分が五〇〇と云ふ大量を買ふことが出來る斯樣な差が有るですから一家の調理を致すものは、余程養分と云ふことに注意せねばならん養分と云ふことに御考へないときは美食をして居らる丶樣でも、實際の攝生には叶ひませんから身は瘦せ衰へて了う、假令肥ねて居るやうでも身長又は躰量が少ないと云ふやうな事になりますから、凡ての食物の上に就て養價と云ふとを考へて調理をしなければならぬと思ひます、あまりつまらぬ事ながら些か思ひ寄りましたとを、御注意迄に述べましたので御座い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。

衛生叢談

◉病婦へのさとし艸(蠡斯草拔粹)

凡そ難產は優福なる人におほしこは身を大切に思ひ過ぎてきづかふが故なり貧賤なるものは朝夕のいとなみに心のいとまなく產の事もうちわすれて常のごとく月日をふる故に大かたは產やすしされぱたゞ懷妊の內は身をわすれて心の內にむようの事をおもはざるをよしとす

人のやまひを重らするは神經と血のふたつより出ざるはなし故に神經をやすんじ血の循環をよくとゝのふる時はたとへ病にかゝるとも心やすく經過をとるべし

何病にても本腹をいそぐ事わろし病に初中終の三ツありていかほどいそぎてもその時節にてなければなをらぬ也然るをもだへて醫者をあまたとりかへぬれば治療の次第たがひていよ／＼本腹を遲し初中終ありとは誰もよくしりたる病にていはば疱瘡にて見るべしほとをりの日ありはみのせ時ありうみわたるあいだあり其後やう／＼にかるゝなりこれをいそぎて二三日の內にも直したきと思ふ人なきは疱瘡には初中終ありて直る時ならではなをらぬといふ事を知りたればなり他病もまたかくの如し名醫といへども初發の病勢さかんなる時は藥が病にまけてきかず中頃ハ藥勢なをかちがたし少し病勢のよはるを見て直さんとするをその日數にたへかねて無理に本腹をいそぎ一醫の藥を二服とも用ひず取かへ／＼するほどに何かはよかるべき

後には又醫者にそのもちゆる藥方をたづねきて其藥方ならば先きにはや誰々用ひたり前にこれ〳〵の方調合あるべしあど醫道も知らぬ人が指圖し或は誰の家の妙藥あどいふ物しな〴〵用ひても驗なければ病家も醫者も手をつかねてすべきやうなきに至る事あり

無上に食養生とて本草の内より壽命をのぶとかきく物をぬき出し之を求めて料理してわが腹中の冷熱虚實をもはからず多く食する人世に多しきはめてひが事なり

食養生とは常にわが腹中にあひたる食物を過ぎざる樣に用ひて菓子類などをむざと食はず夜食はひかへてもちてさざるやうにする事あるべし又見たる事もなき物をかきつけにまかせて多く食ふ事あるまじきなり

◉初生兒の保育

M・K・

生初兒には特別に其母の傍らに新しき臥床を設けざるべからず而して哺乳する時の外は決して母の臥床に同衾せしむるなかれ何となれば母体若し惡露（産后に膣より出る血液狀）に汚れたるを知らずして兒を抱くときには屢々兒の眼病を發起せしむるの危險と其母疲勞して熟睡の際兒を窒息せしむるの災害あるを以てなり

兒の床中には余り熱きに過ぎざる能く栓塞して湯の洩れざる瓶即ち湯たんぽを布に捲き其下脚の傍らに置き床內の冷へざるを注意すべし尤も夏時に於ては之を用ふるの必要なし而して兒をして常に左側又は右側に臥せしむべし之れ若し乳を吐くも能く外方に排泄せらるゝをうるが爲めなり然らざれば屢々窒息するの恐れあるものとす又頭部を覆

ふに布或は綿帽を以てすれば之か顔面に垂下せざる樣に注意すべし

淸潔は小兒の生長に對して大必要の條件なるが故に小兒寐覺むれば直ちに排尿して身体及び臥床を汚せしや否やを撿し若し汚したる場合に於ては速かに湯にて洗ひ寢具等を換ゆべきものとす其他一日一回助產婦に依賴し溫浴せしむべし而して入浴の後は臍部を撿し尙ほ臍帶の一部分附着し居らば之れを軟かき新しき布片に包み牽引せざる樣に注意すべし何となれば容易に切斷するの危險あればなり若し臍帶剝離し居れば之れを除去し臍部に乾燥したる若くは淸淨なる油或は肪脂を塗りたる布片を貼しをくべし

特別に注意すべきとは惡露の兒の眼に附着せしや否やの一事あり之れ甚しき眼病を發し往々兒をして失明せしむるあればなり故に臨產時に於て產婦に觸れたるときは兒を取扱ふに先立ち必ず手を石鹼水にて能く洗滌すべし

兒の哺乳したる其都度冷水或は水と少量の赤酒を混じたる液を布片に浸し口中を洗拭すべし

健康なる母の乳汁は小兒に對し天然の美祿なり最初兒の饑を訴へ啼泣する每に授乳せしむるは一般の母情なれ共成るべく速かに哺乳時に一定の習慣を附する樣になさしむべし假令乳汁の分泌充分なりと雖とも兒滿腹したる后には二三時間を經ざれば再び授乳せしむるなかれ何となれば小兒の啼泣は每度必ず饑渴の爲めのみならざればなり數度の授乳は反ッて消化を妨害し不安を增加するの原因となる又兒の不穩を慰するに乳房を口に啣くまするとは惡慣なりとす母若し劇烈なる精神感動を起

したるときには兒に決して授乳すべきものにあらず何となれば害を兒に與ふればなり此場合に乳房緊張して堪へがたきときには搾乳器を使用すべし小兒の充分榮養を受けたるものは常に靜かにして屢々乳房を慕はず能く發育し日々適當の便通あるものとす若し之れに反して榮養不適當あるときは常に不安にして身体枯瘦し遺溺或は下痢を起し往々衣類寢具を汚すとあり殊に羸弱なる小兒に在りては平常母たるものは是等の點に心を注ぐと肝要ありとす滿十ケ月を經ずして生れたる小兒に於ては發育不全の傾向を有し屢々之れを識らずして突然痙攣を發し斃るゝとあり故に羸弱なる小兒は睡眠中といへとも三四時間毎に之れを寐覺まして哺乳せしむべきものとす若し哺乳する力なき小兒に向ひては母乳を搾取器にて取り或は稀釋したる牛乳を匙にて飲ますべし

母体不健康にして乳の分泌せざるもの或は自から兒に哺乳するを好まざるときは兒を保姆に托するか或は人工に之を養育するの二法より他なし而して是決定を判斷するは專門醫の任なれば宜しく之れを相談すべきとなり

保姆の選擇法は昨卅年二月出版したる本會の雜誌に記載したり又人工養育法は嘗て醫學博士弘田先生が本會に於て講演せられし故に爰に其大要を記せんとす

抑々生母或は保姆なくして小兒を人工に養育するとは一朝一夕の容易なる業にあらず常に注意に注意を加へざるべからざるとは各人の熟知するところなり而して其材料は諸種の動物の乳汁を用ふると雖とも今日一般に世上に需用せらるゝは牛乳と

なす何となれば牛乳は最も得易き適當の滋養品なればなり就中牧場に飼養せらるゝ牝牛の新鮮健康なる乳汁を最良となす然れ共初めて牧場に來りたる牝牛の乳汁は又有害なるものなり牧場に飼養せらるゝ牝牛にして其食物の惡しきものは分泌する乳汁も亦不良なるが故に牧牛者は是點の注意を要す又牛乳の稀釋法は嘗て本會の雜誌に記載したるとあれば再び言はず

温水と稀釋したる牛乳を吸入器に盛り外部を布或はフラネルに包み温度の冷却するを防ぎ之れを與へ既に滿腹して殘りたるものは直ちに捨てゝ吸入器を温水にて洗滌し之れを曹達水中に浸しをくべし斯の如き養育法に從ひて成るべく早く一定の習慣を附くると緊要なりとす

●二三の素人療法

療法といへば何でも醫者でなければ出來ぬやうに心得て居りますす强ち一家内の人でも至急の場合には爲ねばならぬとが幾何もありますから誰れにもできるとを一寸御話し申します然し無闇矢鱈に應用するとはいけませぬ

一葡萄酒

先づ臨産時に大に失血を致しまして産婦は疲勞致しますれば成るべく速かに葡萄酒の上等なるもの少しく砂糖を混じまして之れを匙に取分け少しづゝ産婦にのませながら醫師を御招ねぎなさいませ若し葡萄酒の持合せがなく「ブランデー」が在りましたら之れをいゝ加減水に混し矢張砂糖を入れ程よき味となし飲ますのが宜しう御座ります

一温罨法

之は腫物又は欣衝を身体に起し疼痛を發し何んだか三四日もたちて別に大に腫れもせすぶく〳〵するやう思はれましたれば其局部に溫湯に布片を浸しなましぼりとなし溫氣さめぬやうに載せ其上に乾きたる厚き布を被ひ數度取替へてむす方てあります腫物なれば膿を持ちまして終にはふききれて自然に膿を泄らして治ります又リウマチスノ痛みなれば疼痛は去るとかあります或はパップと申しまして麥の粉を煮て溫め之を布片に包みてむすことも宜しくあります

一、濕布繃帶

之は布三四枚を合せまして熱湯（手を容るを度とす）中に浸し之を輕く搾りまして其溫かき部分を患部に載せ其上に或は西洋手拭を載せても何にも載せなくとも宜しくあります直く溫氣が冷へますから勤めて度々之れを取換へねばありませぬ

一、パップ法

之は大麥、小麥パンコ或は、溫飩粉等を熱湯にて捏ね再び之れを溫めどろ〳〵となりたるものを布片に盛り患部にあつるものを云ふ若しパップ冷却したるを知らずして患部に載せ置けば反て不快を覺ゆるものなればパップをあてたる其上はフラ子ルの布片にて被ひ置くのが宜しくあります

一、冷奄法

之は布三四枚を合せ冷水中に浸し又は溶解したる氷水を浸し輕く搾りて患部に載せ數回之を取換ゆるものなり

冷氣を一層烈しく局所に働かせんと欲しますれ

ば豕の膀胱（氷嚢）或はゴム製の氷嚢に氷片を盛り少しく食塩を混じて之れを使用するのでありますが直接に皮膚の上に觸れしめまするヿは危險でありますゆゑに布を一二枚患部にあてましてその上に氷袋を載するのが宜しう御座ります

一プリスニッツ氏の濕布繃帶

之は初め濕布繃帶をなしまして其に乾きたるフラ子ルを卷き又は載せまして中の濕布繃帶が悉く乾燥致します迄置くのであります

一芥子泥

芥子を良き程鉢にとり之れに温水を注ぎよくてねませ可成かたくなりたるものを布に引きのばし之れを患部の上に貼用するのであります患部の摸樣によりまして直接に皮膚の上に貼りますのと初め皮膚の上にガーゼを載せ其上に貼りますのと二通りであります貼用時間は皮膚が赤くなります迄凡そ十分より三十分間であります皮膚が赤色を呈しますれば夫れを取除けまして能く跡を拭ひおくのであります

◎初生兒の疾患

小兒生るれば直ちに温浴をなすを法とす其際第一に注意すべきヿは兒の尿道閉塞せるや否や又肛門の開閉の二事なり若し然るときは直ちに醫に診察を乞ふべし然れども尿道の閉塞は直ちに之れを知るヿ難く多くは少しく後になりて之を發見するものあり又肛門の閉塞も若し外部に於て凹部を呈し内部に於て閉塞するものには永時大便の秘結するを見て始めて心付くヿ多し若し之れを知らずして永く放棄するときには大便腸中に滯積して兒は甚だ不穩の狀を現はし腹部は膨滿し之れに觸るゝヿ

きは緊張して疼痛を發し啼泣す

若し兒が生れて十二時間以内に襁褓を汚さずんば多くは尿道或は肛門の閉塞あるものと考ふべし然らずんば其生命に大なる危險を及ぼすことあるべし宜しく速かに醫に依賴すべし

舌を上に擧ぐれば中央に薄き膜樣物ありて舌を下方に引く是膜樣物を舌の繋帶と云ふ小兒にして生れながら是繋帶の短かきものあり然るときは哺乳すること困難なり之れを知らずして何故に兒は哺乳すること能はざるやを他に求むるも其原因を見出すを得ず徒らに時日遷延して終に衰弱に陷らしむることあり故に注意せずんばあるべからず舌繋帶の短かきを知るには兒の舌尖は下唇に達せず又運動の際舌尖に著しくくぼみを生ずるにあり

小兒にして曾て乳汁を能く哺みたるものが卒然之を吸はざるに至れば何か身体に異狀あるものと考ふべし

又特に不穩を呈し能く睡らずして屢々啼叫するものに在ては其兒の饑渴に陷りしや否や或は衣服の壓迫を受くるや否や或は襁褓の濕りおるや否やを撿し是等の原因なくして止まずに啼叫するものは又病患に罹りたるものと察すべし苦悶甚しければ隨て啼叫の聲に異狀を呈し重患に陷れば全く號泣するを得ざるに至る同時に皮膚暖くあれば發熱したるものと考ふべし此時には普通呼吸は速かに又は不規則となる

小兒全く疾患に陷れば其榮養に妨害を蒙るものあり爲めに顏面は枯瘦し身体著しく衰弱す

若し便秘を發するときには平常より其度數を減じ二十四時間に一回位となり便は乾燥し硬固となり

痢通の際强き腹帶を用ふるに非ざれば排泄すると能はず若し又便秘が永時繼續するに於ては腹部は硬くなり緊張し熱氣を增し腹痛を起し上脚を上方に引き上ぐる運動をなすべし然るときには即時醫を招くべし

小兒便通頻數となり水樣にして粘液を混じ多く綠色、白色往々腐敗に傾きたる卵黃の如く腹痛を發するに於ては危險最も大なりとす何となれば水分の損失は兒の生力を速かに減削せしむるものあればなり斯の如き塲合には醫の來る迄溫罨法を腹部に貼しおくへし

屢々小兒に嘔吐を來たすことあり例へは一時に多く哺乳したる後に直ちに飲みたる乳汁の部分を嘔出す此吐乳は或は不變なるものか或は既に乾酪樣に變化し居るものとあり斯の如き嘔吐屢々反復するか或は吐出物が甚だしく酸臭を發するか或は同時に下痢を發するか或は兒が頗る不穩の狀態を呈するに於ては其危險蓋し少々に非さるべし速に醫の來診を乞ふべし

小兒には屢々小ある傷を生ずるとあり此傷は身体の皺襞ある部に生ずるものにして例へは耳の後ろ頸の周圍、腋下、下脚の間、陰部、肛門等にあり何となれば皮膚柔軟にして容易く外來の刺戟に堪ゆると能はざればなり而して外傷を受けたる局部は其皮膚赤色を呈し濕潤し或は水泡を現ずるにあり其原因は多く不潔等なり故に患部を生ずれば勉めて其處を淸潔に保ち殊に衣服襁褓等は度々之を新鮮なるものと交換すべし又冷水にて其患部を輕く洗ひ注意してよく乾かし淸淨ある脫脂綿を以て被ひ置くべし若し糜爛又は潰瘍等を生ずるに於

ては醫に議るへし

小兒の口中に即ち舌の上、口唇及ひ頰の內面、齒齦、口蓋等に微小なる白色の斑点の附着するを見る之れを鵞口瘡と云ふ此疾患は蓋し通常不潔に因す故に小兒たりと雖とも哺乳後は其都度必す口內を洗ひやるを肝要なり若し之れを怠たるときは乳汁の殘渣口內の粘膜に附着して是處に於て酸性の醱酵を起すによるなり故に注意深き親は屢々清淨なる冷水又は冷水と葡萄酒とを混じたる液を布片に浸し又は毛筆に之を潤ふし口中の乳の殘渣を除去するを例とす若し鵞口瘡口中に蔓延するときは哺乳を妨け疼痛を發し不穩となり熱發し下痢又は嘔吐催すに至るべし愼まざるべけんや(以下次號)

◉鍼治に就きて

記者一日某處に於て鍼治を業としまする某に面會致しました其時鍼治の事を問ひましたら種々答へました夫れを左に申上ます

鍼治の作用は神經を刺戟する事で丁度電氣と同じやうなものでありまする電氣は性質の相異なりましたるものが互に接合致しますれば發電します即ち鍼は皆な金又は銀より拵造されてありますから發電と見做し人身の筋肉は酸又は鹽類を含有してをりますから之れを亦一の發電体とすることができます故に刺針の際又は消極電氣を起し筋肉は積極電氣を發して一の電流をなしますとは別に疑を容るゝには及びませねども果して電氣其ものが神經刺戟となりまして其現象をなすや否やは未た詳言することはできませぬ然しながら實際に於きまして其狀況を考へますれば一の器械的刺戟の樣に思はれます何となれば手術のとき針の尖の神經に觸れま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

する度の强弱に從ひまして感應の度を異に致します

鍼を健康の人の体に施しますれば其神經の種屬によりまして其現象を異に致します知覺神經枝を觸れますれば疼痛を發し運動神經枝にをきましては痙攣を現はし交感神經枝にては其枝の異なるに從ひまして亦た異なる現象を發します故に今健体に向ひまして手術を施しますれば知覺枝にれきましてはリウマチス樣の疼痛を發します然しなから其鍼の尖を神經枝より隔離致しますれば疼痛は直ちに止みます若し其刺戟强烈でありまして組織に變化を與へますれば其强弱に從ひまして其趣きを異にします若し强劇にて組織し損害か大でありますと知覺は失脫致しまして之れに伴なはるゝ運動麻痺を發します其度輕易でありますれば疼痛二日か三日位は稽留致しましるも六七日を出てすして治ります甚しきも終身の憂を遺すものはありませぬ

若し運動枝を刺戟致しますれば之れの掌る筋肉に痙攣を發し其刺戟を止めますれば其現象も直ちに止み又た其痙攣に當りまして其刺戟を緩しに巧みに刺入しますれば痙攣は持續致しませずして次の筋層に達することができます

交感神經におきましては其配下の臟器にれいて少しく强直樣の感を發して其機能の聊か旺盛を視るばかりであります又た特に腹部交感神經にれきましては其手術に熟達すれば麻醉を起し巧みに人を睡眠となさしめ其醒覺後殊に精神の爽快を感せしむることができます之れを健康の作用と申します

鍼の病体作用と申しまするは神經變常を調節しま

する奇効を有しまするものでありまして諸般の疼痛痙攣に對しましては之を鎭め又其知覺脱失麻痺に對しましては之を興奮致しますると別に電氣療法に異りありませぬ反つて其一局部に施すをうるの便利があります其交感神經手術としまして之を施こしますれば其主管に從ひまして其作用を呈します故に内臓の機能に向ひましては皷舞制止の働きを顯はし脈管の收縮擴張の二神經に向ひて血量の增減を爲し榮養神經に向ひては類化機能を旺盛にして分泌器に向ひては其機能を調節する等實に其作用は平流電氣に似ております

頭部におきましては深層の手術を施こしますれば心肺二臓に其功驗を顯はし心臓におきましては最も鼓舞作用を呈します又其制止作用の如きはオイレンブルグ氏とシエミツト氏とが平流電氣を頸節に通じまして血壓と脈數とを減少すると云ふに反しまして制止の作用は著しくありませぬ故に心悸鎭靜手術としましては反ッて之を副行神經枝に行ひ其反射作用にて目的を達するに上こすとは御座りませぬ又肺臓に對しまする深層手術におきましては上頸節上喉頭聯台枝に刺戟を與へ咳嗽を鎭める効を現はし其淺層手術におきましては副行神經の外枝によりまして同神經の氣管末梢枝に反射を與へ能く痙攣を鎭靜致します

内臓手術としまして之を腰部に行なひますれば胃肝、腎、腸等の運動を興奮致し其分泌を進め腹部の血行を流暢になし殊に病後回復期におきましては食機を興奮致し血液を補給し精神を振起せしむるの効があります

腰椎下部の神經に刺戟を與へますれば下腹神經叢

より子宮叢に傳搬致し子宮機能を保護し月經不調を整理し經閉を開達致し殊に劇甚の痙攣を鎭めまする効力があります

然れども刺戟の禁忌と致しまする處のものは局處の焮衝であります若し之れに手術を施こしますれば其疼痛及び腫脹を增し炎の勢力に盛ならしめます殊に腹膜若くは盲腸炎にれきましては最も忌むべきものとなします世間往々焮衝の初期を知らずして誤ッて之れに鍼するものがあります故に針は焮衝を誘發するの誹りを受けます

針に警戒すべきとは誤ッて頸側におきまして内外頸動脈に伴なふ所の神經叢に直達せしむれは其刺戟を延髓に傳へまして脈管縮小神經に反動を起し俄かに腦髓に入る血量を減少しますが故に貧血性の眩暈を發しまして患者先づ欠伸を發し急に叫號をなし眩暈卒倒をなします然るときは直ちに腰椎上部にれきまして内臟神經の分枝若くは四肢の末梢神經に手術を施しますれば速かに醒覺するものであります

新瀉文會講演

●哺乳兒の消化不良に就て

水野欽君

甚だ不辯舌なれとも昨年八月の本會に於て談話したる哺乳兒の消化不良の續話に就て一言陳述せんと欲す、本日の出席者中八月の會に欠席したる方も見受らるゝか故更に初めに溯りて概說せん

消化不良は多く發する疾患にして而かも其病因を發見するときは容易く消過し得るものなり、故に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

哺乳の消化不良に就て

之を豫防するとも容易なり新潟市衛生會に於て市に於ける廿七、八、九三ヶ年間の死亡數を調査せしが其死亡の多分は孰れも二三歳の小兒にして其死因は未た報告しあらざれとも其大多數は消化不良に基くものなり、本病の症候は初め發生せんとするや吐乳し便秘若くは青色便を起し体温は上昇する ともあり上昇せさるともあり遂に顏面蒼白身体羸瘦して以て死に至るものなり、如斯恐るべき疾患なれとも其罹病中意を注さて之れか病因を探究し假令は乳の不良を發見するときは直に哺乳を休止するか如くせは未だ必らずしも重患に陷いるとは云ふべからさるなり又原因を兼て知り居るときは本病に罹らぬ樣に爲す事も出來ます而して發病の原因は之を大別すれば(一)母乳の不良即ち母乳母の乳の不良(二)營養上の缺点、例へは哺乳時間の不良(三)營養方法の欠点、例へは哺乳器械の不良(四)自然的の原因の四となす

其第一母乳の不良中尙ほ細別すれば(1)母体の消化器に關する疾患例へは腸加答兒若くは胃加答兒の如き(2)熱性病、母体に四十度位の熱あるとき(3)乳房の疾患、乳腫れ等に罹りて膿汁の出で混ずるとき(4)母体の脚氣、此事に就ては醫學上議論あれとも本病を起すものと信じます(5)母の食物の關係、例令は野菜を過食したる時の如き(6)年齡の關係、母高齡なるときは血の成分に變化を來して爲めに小兒の本病を發せしむるとあり、彼の四十歳以上に至りて分娩したる產兒には特に乳母を附するか如きは學理に適合したる處置といふべし(7)母体の月經(8)精神感動、例へは親屬に異變あり母之を聞きて驚くときは兒も之を感動し

て吐乳するとあり(9)乳の適せざると、醫師撿査して良好なる乳なりとなすとも其兒に哺せしめて適すると適せざるとあり其適せざるものは學理上の原因は分明ならされとも兎に角本病を招くとあり

以上は昨年八月本會に談話したる要点なるが之れより進んで第二以下の發病原因に就て陳述せん

第二營養上の欠點、是亦細別するときは(1)授乳時間の關係、學理上乳の消化期は一時間半乃至二時間あり故に二時間後に授乳すべしとの兒科醫の説あるにもかゝはらず母の情として泣けは與へ笑へば授くるあどあり斯くするときは二六時中消化力を繼續せしむるか故本病の發するなり依て二時間を隔てゝ授乳する樣致すへし(2)乳の過領、乳の量は固より之を知るに難し何となれは男女の別によりて其量自から異なるを以てなり然れとも男兒の壯健なるものには乳を吐出するまて授くるも害なけれど女兒の孱弱なるものに對して斯くするときは忽ち病を起すなり故に屢々授くるとして一時に過飲せしむるは避くへし(3)牛乳の不良牛乳の良否を調査するは固より至難の業なれとも第一牛の疾病を撿するを要す、東京の如きは獸醫のあるありて之を診するを得ると雖とも新潟の如きは之を爲す能はず、而して東京に於ける牛乳搾所の方法は十頭乃至二十頭の牛より搾乳し之を混和して産兒に授け居るなりこれ一頭の牛より搾乳し其乳にして有毒なるときは之を哺飲する産兒も亦た之に感染す然れとも若し十頭乃至二十頭の牛より搾乳して混和するときは假令一二頭の病牛ありとも其毒徴漫稀薄となりて産兒の健康を害するま

でに至らざるの益あるを以てなり、第二は牛を飼養する食物牛の乳は之を化學的に試驗して食餌に充てたる芻草に不良品ありしを發見したるとあり第三は人爲的の不良の牛乳、例へは乳に異物を混和すると、第四はコンデンスミルクの良否、種々あれとも亞米利加製の鷲印を尤も良しとす

第三餐養方法の欠点(1)コンデンスミルク又は牛乳の腐敗せるを知らすして已に不詮議の間に不良のものを授くるとあり(2)稀薄法の問違、要するに如斯混和するを可とす

此時購演者左の表を黒版に記して示す

生牛乳

生後一ヶ月後三ヶ月迄	乳一	水三
仝三ヶ月後六ヶ月迄	乳一	水二
仝六ヶ月後九ヶ月迄	乳一	水一
仝九ヶ月後一ヶ年迄	乳二	水一
仝一ヶ年以上	純牛乳	

煉乳

生後一ヶ月後三ヶ月迄	乳一	湯廿二
仝四ヶ月後六ヶ月迄	乳一	湯十八
仝七ヶ月後九ヶ月迄	乳一	湯十六
仝十ヶ月後一ヶ年迄	乳一	湯十二
仝一ヶ年後二ヶ年迄	乳一	湯五二
仝二ヶ年以上	乳一	湯二

斯くの如く年月を重ぬるに從て混和すへき湯の量を漸次稀薄にするを要す元來牛の胃囊は三ッありて其食物を食するや此二個の胃囊を經て始めて消化す而して人間の胃囊は一個にして尚且つ能く食物を消化せしむ、是に由て觀るときは牛乳の人乳より消化し難きと明了あり、故に生後年月を經す消化か未た完備せさる產兒には多量の水を混和して消化し難き牛乳を能く消化し易からしむべし

(3)哺乳量の過失、一日の哺乳量は男女强弱の別によりて異れとも要するに一日目には二勺五才二日目には五勺、三日目に一合、四日目一合五勺

五日目二合、一ヶ月目三合、二ヶ月目三合五勺、三ヶ月目四合、六七ヶ月に至れは六合を要す而して斯く割合ひて哺乳せしむへし

牛乳を與ふる器械の不潔、器械は二個以上を有し常に熱したる湯にて清潔に爲すへし

第四、自然的の原因(1)兒の生齒の困難、齒の生せんとするに當り熱發して爲めに本病を起すとあり(2)鵞口瘡、即ち口內不潔なるか爲めに發病するとあり(3)小兒の熱性病(4)不適當の食物、即ち齒の未た生せさるものに菓子抔を與ふることき(5)藥劑、重患ならは藥劑を服さしむるも可なれとも輕症なるものに對し其病因の發見に力を注かすして徒らに服藥せしむるときは爲めに本病の增惡するとあり

本病の原因說き來れは前述の如し、故に皆樣も能く之を會得して常に病因發見に注目し醫師の容体を尋ぬるあれは直に之に明答を與ふるあらは吾々醫師の診察上大に參考ともなり之に由て本病を全治せしむるの捷徑を得ん、又可愛の小兒をして病苦を豫防するとをも得ん一言以て懇望す

大日本私立衛生會雜誌中載する所の質問部中適切なるもの二三を拔萃す

◉產婦に關する質問

問　分娩後幾日を過經せは衛生上旅行するも差支なきや但旅行の方法「滊車、人力車、船舶、徒步等」遠近及期節に關係あるべし

答　初產、經產、分娩の難易其他人々の性質に依て分娩後復故に要する(子宮か)時日は多少其長短を異にすべしと雖ども之を實驗に徵すれば大抵三七、二十一日間にして整復するを常とす故に此二十一日間の產蓐期間を經過するときは如何なる種類の旅行運動を許すも規則としては妨あるべからず

勞働者(工女)分娩するときは產蓐中(二十一

日間）は全く休業を命じて賃金の幾分例は二分一乃至三分二を支給するを法とす而して歐洲にては此休業日を四乃至六週日より尚六乃至八週日に延長すべきの議あり社會は果して之を容るゝや否やを知らず云々

問

◉肝油乳菓の脚氣豫防に効あるやの質問

余一昨年迄年々脚氣に悩める人に就き同年同病の癒へてより後暫時の間すゝめて肝油乳菓を服せしめしに昨年は脚氣の稀なる故かは知らざれども其期節に至り同病を發せず尚は二三の同例あり是に於てか脚氣の豫防は滋養を主とするに因て之を完ふするかの感を起しぬ其効否如何云々

答

審事委員古川醫學士の答解に脚氣の病理病原は未だ詳かならずと雖も一種の中毒症なるが如し而して其毒物は食物（蛋白？）より腹内に於て發生し血中に吸收せらるゝものとす又此毒物は便秘に依て其量を増すものなれば肝油乳菓の如き下泄の效ある物質を與ふるときは便通を促がして幾分か脚氣の豫防となるべし但し直接に榮養を高めて豫防するの說は答解者の取らざる所なり云々

◉スコット乳菓の衛生上に於ける價値如何

答

古川醫學士の答解に本品は普通の肝油を一定の方法によりて服用し易く即ち成るべく丈不快の異臭味を除き消化吸收し易く爲したる乳劑にして其功能は普通肝油と大差なく價は至て高き方なり弱き小兒は勿論、囘復期患者等に用ゐて偉効あることはスコット乳菓の廣告に毎常見る所あり

其他委しくは理論に亘るの嫌あるを以て此處には說明する限りに非ず云々

質疑應答欄設置

本會々員にして衛生上の質疑も有之候へば早速御申越有之度左すれば編輯員は醫學大家の解答を乞ひ本誌上に於て解答致すべく候也

大日本婦人衛生會

新瀉支會記事

●新潟支會春期懇親會

同支會にては去る五月一日をトし同支會講師淺田決君の邸内に於て園遊會を開きたるが當日は天氣晴朗なりしをもて出席する者無慮百五十餘名に達せしと云ふ今當日園遊會の景况を記さんに庭園内の池邊に能舞臺を造り能狂言の催しありて其番組には猩々臺、船辨慶、狂言には三人片輪、淸水、墨塗等あり右終るや音樂隊の劉亮たる演奏に連れて園遊會は始まれり其趣考たるや園内各所に散布して四五ヶ所の休憩所を造り之れに辨當店、蕎麥店、團子店、小間物店等を出し役員一同は是れが接待掛りとなりて會員を接待せるなど中々の盛會にして來會者一同滿足歡を盡し散會せしは午后四時過くる頃なりしと云ふ

尙當日の收支決算を聞くに勝間田會長以下役員の寄附金總計金十一圓外に麥酒葡萄酒等の寄附あり講師一同よりは音樂隊を寄附せられ

當日の總收入額金五十六圓八十五錢支出額金六十六圓五十貳錢五厘ありしと云ふ

廣告

去四月より五月に至る入會轉居者左の如し

●入會者

●會員小林すて子の紹介により

淺草小島町五十七番地川井久吉方　猪熊花子

●會員大井田良子の紹介により

日本橋區濱町二丁目九番地大井田方　佐々木いね子

同　高橋さた子

同　關谷まつ子

同　白井玉井子

同　木南こよ子

同　高野やゑ子

●會員淸水とし子の紹介により

芝區西久保葺手町十七番地　加藤きよ子

四谷區荒木町二十七番地　渡邊ふさ子

●副會長濱尾作子の紹介により

牛込區築土前町二十八番地　特別會員　外山ふさ子

●地方會員沖野りう子の紹介により

山形縣山形市旅籠町新築二百七十五番地　國井よしを子

●會員口羽いま子の紹介により
本郷區湯島四丁目十四番地　篠澤こと子

●地方會員清水富喜子の紹介により
横須賀子神山官舍　辰巳富野子

●會員山本里子の紹介により
下谷區下根岸町根岸病院　片貝武子

●會員伊東まき子の紹介により
本郷元町二丁目四十七番地秋間方　杉山ます子

●地方會員安達芳子の紹介により
筑前鞍手郡勝野炭坑　内野春江子

●會員外山ふさ子の紹介により
麻布北新門前町六番地　家永ゐい子

●會員森もと子の紹介により
本郷第一醫院　岸もと子

●會員鈴木まさ子の紹介により
錦町三丁目鈴木まさ子方　佐々木かく子
同　齋藤ます子
同　瀧澤まつ子
同　朝倉ふみ子

●事務所へ申込により
長野縣長野縣立病院日本赤十字社看護婦會　蘆澤さくの子
美濃國揖斐郡大野村　賛成員　大久保百次君
山梨縣北都留郡上野原村　岡部やまぢ子
駿河嚢袋町十三番地婦人科病院内　内山くら子
同　鹽谷きん子

●新潟支會へ申込により
新潟市白山浦一丁目百十六番戸　今井みす子
新潟市月町　木下てつ子
新潟市東堀四番町　長井さと子
新潟市白山浦一丁目　小塚をと子
新潟市本町通七番町　兒玉さく子
新潟市上旭町一番町　今井すみ子

●轉居者
小石川諏訪町二十九番地へ　上原豊子
麹町三番町四十四番地へ　三浦勢舞子
神田表神保町三番地へ　小林すて子
赤坂南町百三番地へ　森寛子
相州三浦郡豊島村中里二百〇九番地へ　山崎富志子
麻布飯倉狸穴町十八番地へ　吉澤まき子
京都聖護院町百番地へ　木下常子
芝區松本町八番地へ　今村國子
筑前鞍手郡直方町大字新町百廿八當地へ　佐藤壽美子
肥前國佐世保八百五十八番地へ　石黒よ志子
麹町飯田町一丁目八番地船曳方　山崎はる子
宮城縣陸前國志田郡古川町片倉病院江口文一郎方へ　兼子きみ子
芝公園二十一號地三番へ　田中てる子
麻布宮村町十三番地へ　山地謙子

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
　但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
　但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し
　但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とすること有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
　但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記録及雜務を掌る
　但幹事の分課を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤再撰するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
　但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず
　但し會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

明治二十一年二月二十八日内務省許可

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふべし

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれは之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地
私立 大日本婦人衛生會

齒科診察
午前八時より
午後五時まで
東京日本橋本町二丁目十二番地
齒科醫 高橋コウ

明治三十一年五月十八日印刷
明治三十一年五月二十日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎
印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造
印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行
（定價金拾錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN